

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への口腔外科の対応に関する注意喚起 Ver. 1.2

公益社団法人 日本口腔外科学会 理事長 鄭 漢忠

2020年4月6日

日本口腔外科学会は今般の新型コロナウイルス（COVID-19）感染患者の増加に際して、口腔外科治療にかかわる医療スタッフ及び患者の院内感染予防と私たちの診療室がクラスターの発生源となることを防ぐため、2020年3月31日付で注意喚起 Ver1.1 を発出しました。現時点においても日本国内では感染の収束のめどはたたず、感染者数が急増していることから、今後の対応として以下の注意喚起を行います。

1. 緊急を要しない外来の新患の受け入れやリコール、不急と判断される手術については延期を検討してください。
2. 外来においてエアロゾル発生の可能性がある口腔内の手術や口腔ケアについても延期を検討してください。
3. 待機手術では、直前2週間の外出自粛、イベントへの不参加、渡航の禁止などを患者に要請してください。
4. 手術に代わる治療法（エアロゾル被曝が少ない治療法）がある場合には治療法の変更も検討してください。
5. 待機手術実施の可否や延期期間は、医学・歯学的観点および医療資源の合理的配分を考えて総合的に検討して判断するようにしてください。

その他、日本外科学会 (<https://www.jssoc.or.jp>) の外科手術に関する提言も参考のうえ総合的にご判断ください。

上記は公益社団法人日本口腔外科学会の現時点での原則的な見解であり、国内状況の変化により変更する可能性があります。会員の皆さまにおかれましては本見解をご参考の上、各自の状況（所属施設の方針や都道府県の要請）に応じた適切な対応をお願いいたします。